

2025 年 5 月 3 日（土）午後 2 時～3 時「おしゃべり鑑賞会」開催報告

昨年にひきつづき、コレクション展を数人のグループで対話しながら鑑賞する「おしゃべり鑑賞会」を開催しました。作品を見た感想を言葉にし、さらに他の方と共有することで思いがけない発見につながり、一人で鑑賞するのとはまた異なった体験をすることができました。

【参加者】6 名 ※申込み 8 名、2 名キャンセル

【担当】杉山・丹野

【参加費】400 円（ドリンク代） ※コレクション展入館料別途必要

【鑑賞した展示】常設展示室コレクション展「ベスト・セレクション」

●喫茶室にて段取りと注意事項を説明 5 分程度

< 注意事項 >

- ・携帯はマナーモードで。他の鑑賞者に配慮を。大きな荷物はロッカーか受付に。
- ・遠慮せずなんでも話す。見て考えたことを言葉にする（アウトプット）。
- ・自分の目で見て、頭で考えて、言葉で語る（作品の解説文はあくまで参考。あまり気にしないで自由に感想を。）
- ・人の感想を肯定的に受け取る。自分とは違う考えや感想を「多様な価値観」と肯定的に考える。安心して話せる場になるように協力を。
- ・他者の視点により自身のイメージーションを膨らませてクリエイティブな鑑賞を。
- ・他の来館者への配慮を

※3 人×2 グループに分ける

●常設展示室へ

まずは展示全体を 20 分鑑賞・・・鑑賞したい作品を各自 1 点選ぶ。

2 グループに分かれ、選んだ作品を 10 分程度ずつ鑑賞する。

ファシリテーターからの問いかけ

- ① この絵の中で何が起きていますか？
- ② どこからそう思いましたか？
- ③ ほかに発見はありますか？

ファシリテーターは、指し示し（どこに焦点があたっているか）、別の表現で言い換え、話題をつなげる（別々の視点をつなげる）、話題の枠組み（framing）を変化させる。

【皆さんの感想】

グループ A（ファシリテーター：杉山）

(1) No.11 《花》1950 年代

- ・花の作品の中でも過渡期で、まだ模索中の感じが気に入った。
- ・花瓶の描き方がおもしろい。色が他の花の絵より柔らかい中間色。
- ・花の周囲が塊のように見える。

(2) No.9 《鳥と琴を弾く埴輪》

- ・描かれている埴輪がみな笑っているように見える。
- ・人物の埴輪の顔が○で描かれているのも笑って見える要因。
- ・中央の鳥の埴輪が目立つ。周囲や背景が光っている。
- ・鳥がオーケストラの指揮者となり、周囲の埴輪たちが演奏しているようだ。

(3) No.13 《太陽》

- ・作品全体からエネルギーを感じる。
- ・作品の下の方が暗く沈んだ感じなので、よけい太陽が明るく見える。
- ・太陽の左右の黄色い帯により、太陽が回っている動きを感じる。描かれた瞬間はちょうど正面に太陽が来ている。
- ・作品の一番下の暗い部分は山、その向こうに海、太陽、空があるように見える。
- ・風景画だと普通、太陽は海などに反射している様子が描かれるが、この作品にはない。鑑賞者に直接向かっている感じがする。

(4) No.1 《自画像》 ※やや時間が余ったので追加

- ・艶っぽい感じがした。
- ・目に強さを感じる。
- ・左右で目の表現が異なる。向かって右の目は強い感じ。左の目は何をを考えているか分からない感じ。



グループ B (ファシリテーター：丹野)

(1) No.12 《飛ぶ鳥 (火の山にて)》

- ・三岸節子作品は赤色のイメージが強かったので、正反対の深く冷たい青色が気になった。
- ・最初は、亀を描いているのかと思った。大きな目玉と嘴があることや、タイトルの「飛ぶ鳥」をみて、ようやく鳥がモチーフになっているのだとわかった。でも、飛んでいる鳥にはあまり見えなかった。→今は飛んでいない鳥？かつて鳥だったもの？を描いたのかも。

・青色の中に、わずかながら下地に赤色が使われているところがある。この部分が「火の山」に当てはまる？

・画面の下の方に月がある→水面か何かに映っている？私たちは、飛ぶ鳥や月そのものではなく、何かに映った景色を見せられているのかもしれない。

(2) No.22 《ブルゴーニュにて》

・手前の黄色い花は静かにたたずんでいるよう。画面上半分は、迫りくる嵐を前に鳥たちが飛びたつ瞬間を捉えていて、静と動が一緒になって描かれている。

・節子さんが描く風景は、ビデオのように映像的に撮っているのではなく、カメラのように瞬間を切り取っている感じがする。

・飛んでいる鳥がドラゴンのように見えた。自分たちが暮らす山へ飛んでいこうとしているようで、ファンタジー的な要素もある作品と感じた。

(3) No.28 《花（絶筆）》

・絵具が何層にも塗り重ねられ、作品全体からすごいエネルギーを感じる。

・濃い黄色が印象的だが、ところどころ間から下地の赤色も見える。好きな色の絵具をどんどん塗り重ねていって、楽しく制作していたのではないかと思った。

・下部分は花瓶なのか？ほかの花の作品と見比べると、形も不思議でこの作品だけ異質な感じがする。木の幹のようにも見える。

(4) No.1 《さいたさいたさくらがさいた》 ※やや時間が余ったので追加

・絵具が滴り落ちた跡が、雨のように見えた。背景も深く暗めの色で、時間帯は夜だと思う。「雨の中の夜桜」を描いた作品と感じた。

・大きく渦を巻くように描いている。体の内側からくるエネルギーを、キャンバスに刻みつけているよう。



終了後は、喫茶室で飲み物を飲んでくつろぎながら、さらに絵の感想を語り合ったり、三岸節子作品の図録を見たりしました。